

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カノアスFC元今泉		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日		～ 令和8年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の満足度が非常に高い 通所を楽しみにしているとの回答が多く、支援への満足度も高い評価を得ている。	子どもの「できた」「楽しい」を積み重ねられる活動設計を行っている。 サッカー活動を通して成功体験を意図的に作り、自己肯定感を高めている。 活動後に振り返りの時間を設け、気持ちを言語化する機会をつくっている。	個々の興味関心に合わせた選択制プログラムの導入を検討する。 子どもからの意見・希望を活動内容により反映できる仕組みを強化する。
2	支援計画・アセスメントの質が安定している ニーズ分析・個別支援計画作成について高評価を得ている。	初回面談時に丁寧な聞き取りを行い、多角的なアセスメントを実施している。 5領域の視点を意識した個別支援計画の作成を徹底している。 定期的なモニタリングを行い、計画の見直しを柔軟に行っている。	学校や関係機関との情報共有をより密にし、支援の一貫性を高める。 外部研修への参加により、アセスメント技術の向上を図る。 支援目標の数値化・可視化を進め、成果の見える化を強化する。
3	職員間の情報共有・振り返り体制が整っている 支援前後の打合せや記録の徹底が行われ、PDCAの実践が定着している。	活動前後のミーティングを実施し、役割確認と振り返りを徹底している。 日々の療育記録を共有し、児童の変化をチームで把握している。 課題が生じた場合は速やかに共有し、対応方針を統一している。	ケース検討会を定期開催し、支援の質をさらに高める。 新人職員向けのOJT体制を体系化し、支援の標準化を強化する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スペースに対する利用人数のバランス 一部保護者様より「人数過多」との意見あり。	利用希望者の増加により、時間帯によって利用が集中している。 活動内容によっては室内スペースの活用が偏っている。 保護者様への説明不足により、実際の支援体制が十分伝わっていない可能性がある。	利用時間帯の分散やグループ分けを工夫し、密度の緩和を図る。 活動スペースの再配置を検討する。 支援体制や安全配慮について、保護者様へ丁寧に情報発信を行う。
2	第三者評価の未実施 外部評価の活用が十分でない。	日常支援業務を優先し、外部評価導入の機会を確保できていない。 自己評価での改善を中心に運営してきたため、外部視点を取り入れる機会が少なかった。	第三者評価制度の情報収集を行い、実施可能性を検討する。 外部研修・専門家の助言を積極的に取り入れる。
3	地域自立支援協議会等への参加が限定的	日々の支援業務との兼ね合いで参加時間の確保が難しい。 地域連携の優先順位が十分整理されていない。	担当者を明確化し、参加計画を年間スケジュールに組み込む。 地域連携の目的を整理し、事業所の強みを発信する機会とする。